

## 単元名 6 いにしへの心にふれる 一蓬萊の玉の枝「竹取物語」から

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味を理解することができる。  
 (2) 物語の展開、粗筋を理解し、作品や図版を通して、当時の人々の生活や文化、ものの見方や考え方を、現代と重ね、比較して捉えることができる。  
 (3) 「竹取物語」のおもしろさを味わわせ、古典文学に対する興味や関心をもととする。

## 標準的な展開例

10210215\_001

【準備等】国語指導CD、古典文学DVD、再生機

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「竹取物語」のあらすじを捉え、冒頭部を歴史的仮名遣いに注意して音読する。          ○目標を確かめ、学習の見通しをもつ。</p> <p>★「竹取物語」の冒頭部分を正確に音読しよう。          ○「竹取物語」について知っていることを発表する。</p> <p>○全体の粗筋を大まかにつかむ。          ○冒頭部分を音読する。</p> <p>○冒頭部分について内容を理解する。</p> <p>○原文の視写をする。          ○「解説文」(p. 159～p. 160)を読み、物語に興味をもつ。</p> <p>2 「くらもちの皇子の架空の冒険談」を場面を想像しながら音読し、話の展開を捉える。          ○本時の学習課題をつかむ。          ★「くらもちの皇子の架空の冒険談」のおもしろさを味わおう。          ○「貴公子たちの失敗談」を読む。</p> <p>○「くらもちの皇子の架空の冒険談」の原文を音読する。</p> <p>○「くらもちの皇子の架空の冒険談」の現代語訳を読んで感想を発表し合う。</p> <p>○「解説文」(p. 162～p. 163)の解説文を読む。          ○原文の視写をする。</p> <p>3 解説文と原文部分から、場面の様子や翁、かぐや姫、帝の心情を読み取る。          ○本時の学習課題をつかむ。          ★場面の様子や登場人物の心情を読み取ろう。          ○「解説文」(p. 163)を読み、登場人物の思いを考える。</p> <p>○「教科書」(p. 164)の原文を音読する。</p> <p>○「教科書」(p. 164)の原文と現代語訳を対照させながら読み、情景や心情を捉える。</p> <p>○原文を視写する。</p> <p>4 古文のリズムや古語に親しみ、ものの見方や考え方を、</p>	<p>・「学習」(p. 168)を確かめ、大まかな学習の流れについて説明する。</p> <p>・現存する最古の物語であること、また、紫式部が「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」と記していることを確かめたい。</p> <p>・図版を参考にさせる。</p> <p>・古典文学DVDを視聴するのもよい。</p> <p>・「古典の言葉」(p. 169)を参照し、歴史的仮名遣いを確認して、音読させる。</p> <p>・国語指導CDを活用してもよい。</p> <p>【評】繰り返し練習して、音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・現代では使われなくなった言葉や、違う意味で用いられる言葉に線を引き、訳を確かめさせる。</p> <p>・助詞の省略についても触れておく。</p> <p>・「今は昔」に着目させる。</p> <p>・古語に慣れさせ、暗唱へとつなげる。</p> <p>・子どもを思う親の気持ちや家族をもつ喜びなど、現代と変わらない思いを感じさせる。</p> <p>・かぐや姫の人物設定を確認させる。</p> <p>・「貴公子たちの失敗談」(p. 166)を参考に、5人の貴公子と与えられた難題を押さえる。</p> <p>・くらもちの皇子の行為について、自由に意見交換させる。</p> <p>・教師の範読、または国語指導CDを活用する。</p> <p>・歴史的仮名遣いを確認させる。</p> <p>・皇子の作り話の巧みに気付かせ、真実味を出すために工夫している点などについて話し合わせる。</p> <p>【評】語句の意味や内容の発表を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・仮名遣いに注意して視写をさせる。</p> <p>・かぐや姫と翁たちの別れの悲しみを想像させる。</p> <p>・帝の二つの行動に着目させる。</p> <p>・教師の範読を聞かせる。または、国語指導CDを活用してもよい。</p> <p>・歴史的仮名遣いを確認させる。</p> <p>・次の内容について確認させる。</p> <p>①だれが書いたものでだれに対する「御文」か。</p> <p>②「仰せたもう」たのはだれか。</p> <p>③なぜ「ふじの山」と名付けられたのか。</p> <p>【評】場面の様子や心情を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>

<p>現代の人々と比較してまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原文を冒頭部から音読する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ 「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動を現代の人々と比べよう。</li> <li>○ 「竹取物語」に関する資料を読む。</li> <li>○ 「描かれている古典の世界を想像してみよう」(p. 168)に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の流れや人物の心情を思い浮かべながら音読させる。</li> <li>・ 他の資料を参照させ、「竹取物語」の一部分を読ませる。</li> <li>・ 登場人物の思いや行動から、喜び、悲しみ、怒り、憎しみ、欲望など、今の自分に通じるところはないかを考え、まとめさせる。</li> <li>・ 学習プリント等を活用するとよい。</li> </ul> <p>【評】 当時の人々と現代とを比較し、まとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
--	---

【 備 考 】  
 小学校では、古文や漢文を音読し、古典に触れる機会があった。しかし、古典について深く学ぶのは、この単元が初めてである。そのため、図版を多く盛り込んで古典世界へのイメージを楽しく広げるとともに、手応えのある内容が用意されている。古典の文章に読み慣れるとともに、内容の手応えを感じられることが、古典への興味や関心につながっていくことになる。古典の中に、時代を超えた人間の姿や心を見いだせるように、この単元を学習させたい。